

応急手当

心臓や呼吸が止まってしまった時に、AEDなどを使用して、
応急手当をすることで命を助けることができます。

AEDを使った救命方法

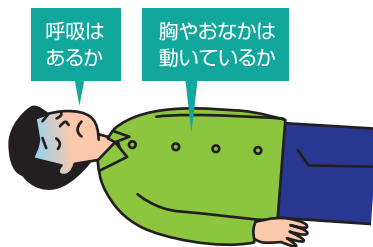
① 反応の確認と119番通報／AEDの確保

周りの安全を確認して近づき、肩をたたきながら「大丈夫ですか?」と声をかけます。反応(動きや返事)がなければ、大きな声で人を呼び、119番通報とAEDを持ってくるように頼みます。



② 呼吸の確認と胸骨圧迫(心臓マッサージ)

倒れた人をあお向けにして、10秒以内に胸やおなかの動きをみます。呼吸がないか、普段どおり息をしていない時は胸骨圧迫(心臓マッサージ)を行います。

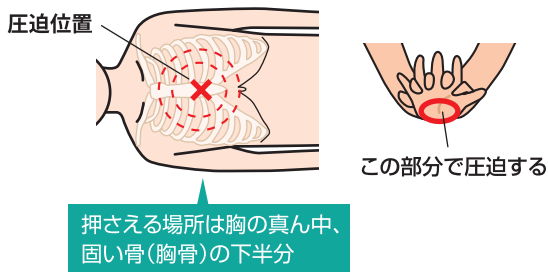


*息をしているように見えても、突然、心停止となった場合、「死戦期呼吸」と呼ばれるゆっくりとあえぐような呼吸や「けいれん」が認められることがあります。

*「死戦期呼吸」や「けいれん」の判断ができない場合や、自信がもてない場合も、胸骨圧迫とAEDの使用を開始します。

ポイントは「強く」、「はやく」、「たえまなく」

- 強く……胸が5cm以上沈むまでしっかり体重をかけて押し下げ、すぐにゆるめます。
- はやく……1分間に100回以上のテンポ
- たえまなく……倒れた人が動き出すか、救急車が来るか、AEDが届くまでしっかり続けます。



人工呼吸ができる場合は

気道を確保し、鼻を軽くつまんで口から息を吹き込みます。胸骨圧迫30回に人工呼吸2回



③ AEDを用いた電気ショック

AEDとは、「自動体外式除細動器」のことで、心室細動と呼ばれる不整脈(心臓のけいれん)によってポンプとして動かなくなってしまった心臓に、電気ショックを与えることにより、元の収縮を取り戻させるための機器です。

AEDは、心電図を自動的に解析し、音声や表示をしてくれます。落ち着いてAEDの指示に従い救命処置を進めてください。

